

寺
ごよみ

七 月

一日 音沢お講

五日 仏教入門講座

六 日 本山御助成会

(場所 順昌寺)

八 日 清掃奉仕

一二日 黒西組

仏婦研修会

一五日 祠堂会準備

永代祠堂会

一六日 中陣お講

一七 日 仏婦追悼法要

寺族・総代戦没

者物故者法要

一八 日 内陣法名法要

夜のお座

一九 日 内陣法名法要

寺 報

善 巧

発 行

〒 938-0862 富 山 県
黒部市宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル info@zengyou.net
U R L http://www.zengyou.net

七月十六日～十九日 永代祠堂会

講師 加藤 信行師(鹿児島)



梯實圓和上より結婚式
のご法話で「當相敬愛」
というお言葉をいただき
ました。「お互いに敬い
合い、愛し合う。愛に敬
いが伴わなければ、それ
は誠の生き方ではない。
それには相当の『覚悟』
がいる」と。この覚悟と
いう言葉に強く心を打た
れました。ただ好きとい
うだけでは、自分の都合
次第ですが、相手を敬
い続けることの厳しさを
感じます。

改めて考えてみると、
独身時代、ぼくは自分
の都合ばかりで生きて
きました。人と関わる
時には、自分の都合は
ほとんど通りませんから、
それだけに、自分のやり
方で、自分のペースで物
事をやるというのがとて
も気楽で、一面には、ひ
とりほど楽なものあり
ません。一時、友人の間
でも「やつぱりひとり
がいいよね」が皆の口癖
でした。でもやはり、人
はひとりでは生きてはい

けない。この、ひとり
では生きてはいけないとい
うことも、現代の若者の
間では実感しにくくなっ
ているように思います。
一昔前ならば、農作業の
助け合いなどによって人
は支えられていましたが、
時代は変わり、仕事も趣
味もみんなバラバラ。今
は「お金さえあれば」と
いう感覚がふつうです。
必然的に、助け合いと
いうことも、ただ煩わ
しさのみに目をやるよ
うになりました。ぼく
の世代は、そんな感覚
が当たり前の時代に育っ
ています。一方で、仏
道はこの価値観の正反
対にあります。「苦難
は私が引き受けるから、
あなたはどうぞ幸せにな
ってください」と願っていく
生き方」。

當相敬愛

生涯をかけて共に耳を
傾けていきたいものです。
理想なき時代に、変わら
ぬ理想があるという身の
しあわせを。
善巧寺住職 雪山 俊隆



愚禿の名のり 三

行信教校講師 天岸浄圓師



きると思いますし、また、ご信心ということも、やはりそういうことと非常に密接に関わってくる事柄なんですね。

浄土真宗のご縁をいただいております者にとりましては、法然聖人のご法義というものが、弾圧を受けていかれるということにまず不審を持ちます。しかし、先ほどご法語の中で話しました、私たちがこの人生を生き抜いていく一番中心に位置付けるものが何であるかということを決めること。それを私は広い意味で、「宗教」ということがで

私どもは、現在、親鸞聖人や法然さまのご縁をいただいて、仏法を聴聞し、お寺へお参りをさせていただいていきます。浄土真宗のお寺へご参詣いただければ、全体として、規模の大きい小さいはあってもこういうお寺の建て方ですね。何が申し上げたいかと言いますと、お内陣と外陣の広さの割合です。お内陣よりも外陣の方が広くとってあります。そして外陣には畳が敷き詰めてあります。お内陣の中央は、余間は別ですけれども、畳が敷きまわしてあるだけですね。確かに内陣は日常の空間ではありません。仏さまを安置申し上げる場所ですから。しかし古い時代、奈良時代や平安時代は今とは違います。一番大きな特徴から言えば、奈良の大仏さまをみなさんご存じでしょう。あの奈良の大仏さまというのは、現在建っている大仏殿というのは江戸時代に建てられたお堂なんです。ところが、建てられた様式、建て方は基本的に昔のままなんです。千二百年昔の面影を残して建ててあるわけなんです。現在のところ、日本で一番大きな木造建築の仏教寺院なんです。ところが、あのお寺をお参りしても、畳が敷いてありませんね。古い時代は畳がなかったのかもしれませんが、畳は置いていません。何が

申し上げたいかと言うと、奈良の大仏さまのお堂の中に参りをさせてもらって、あそこでゆっくり仏法を聴聞しようかという風には造られていないんですね。つまり、あの大きな大仏さまはそのままお仏壇なんです。みなさん、お家に大きなお仏壇が安置されていて、中まで入らないでしょう。お給仕のために手は入れますけれども、自分が中に入ることははずっと先の話でしょう。

お寺の形一つ見ても、私たちはこういうのがお寺だと考えるんですけれども、外陣の方が広くて、畳が敷きつめてあって、椅子が置いてあって、ひざ掛けが置いてあって、ストープが入れてあって、カーペットが敷いてあるというのは、これは一体どういうことなんでしょう。これはお寺の機能が完全に変わったということなんです。お寺とい

う意識も変われば、お寺の持っている働きも変わって、ということなんです。今までは、仏さまをおまつりして、大きな仏さまやたくさんのお仏さまがつられてあって、一般の人とはほとんどつながりのなかったお寺が、一般の方たちこそが、いわば、お正客になる。優遇されてらっしゃるわけです。ご参詣の方が優遇され、少しでも負担をかけずにご法義が聴聞できるようにシステムのお寺に実は生まれ変わっているんですね。お寺が変わっていくということは、仏教の考え方が変わっているという事なんです。もちろん仏教ですから、仏さまが中心なんですけれども、その仏さまを中心とするというのは、仏さまを単にまつだけじゃなくて、その仏さまのお心が、一人でも多くの方たちに聞き入れられて、その教えが一人一人の人

生のよりどころになり、価値判断の基準になっていくような働きの場にお寺が生まれ変わっていくわけなんです。

そのきっかけが、法然さまなんです。ですからもちろん後の時代になりましたら、みな外陣を広くとるようにありますが、基本的に法然聖人がお出になって、仏法の方向性というものをお変えになることが、一つのいわば、方向転換の時期になるんです。そうしますと、これは今までの仏法、それから仏法と密接な関係をもっておりました政治の世界、その政治の世界と、法然さまが、今までは顧みられることのなかったいわゆる庶民層。特別に学問する機会もなければ、経済的な余裕もなければ、時間的な余裕もなければ、そして現代風に言えば、税金を徴収する、回収の対象としてだけみられておった一般の人たち。徴

収はされるものの、保護もなければ福祉もないという非常に冷遇され、それが当然のような状況になっておった人たち、またそれで当然だと半ば以上あきらめていた人たちが、「阿弥陀さまという

くれないけれども、阿弥陀さまはこれだけのことをしてくださったんだ、となれば、その人の価値の中心に天皇さまを守ろうとするような意識よりも、如来さまをたたえようとする意識の方が勝つてくるわけですね。こう

持ちはまったくないんですけれども、実は宗教というものの働きの、政治のもっている働きの、ものは非常によく似ているんです。だから政治のことをまつりごとと言ったんです。その政治というものが、尊いものだというバックアップに使っているのは宗教ですから、神さまとか仏さまをそこへ持っていくわけです。

一般の方たちこそがお正客

お念仏という道を選びとってください。そして、必ずさとの浄土に往生させ、私の生と死の救いの場を恵んでくださってあったんだ」ということを一人一人が、おぼろげながらにでも自覚をしていきますと、これはわりとこわいことになるでしょう。わかりますか？

極端な言い方をすれば、天皇陛下はなんにもして

とが起こってくるわけですね。なんせ、役人というのはわずかな人間なんですからね。そういう人々をはじめ、大勢の人がお念仏という信仰に目覚めていきますと、これはわりと、ゆらぎを起こしていく可能性をみえてしまうわけです。

当然ながら、法然さまにはそんなお気持ちはないんですよ。そういう気

そうしますと、そういう今まで支えてきた、政治の屋台骨が一つ間違えばぐらついてくる、という恐れを抱くわけですね。

それともう一つは、お念仏一つで、あらゆるものが救われていくんだという、この考え方に当時の仏教のお坊さんたちが納得がいかなかったんです。私どもは、長い八百年という歴史の中でお念

仏のご信心というものが、間違いないお救いの教えであるということ、私たちの先代や先々代からずっと伝えてくださった方たちが、それがある種歴史をもって証明してくださいました。でも、初めて言われた時にはたがい普通の常識からは、拒絶反応を示すんですね。たぶん今でもそうだと思いますよ。みなさん新しいものを使われる時には初めは拒絶するでしょう。



住職結婚式

六月二日

平成十九年六月二日、

晴れわたる空の中、司婚者梯實圓和尚、お仲人高務哲量先生ご夫妻のもと、多くの方に見守られながら、善巧寺第二十二世住職の結婚式が執り行われました。お相手の命子さんは九州福岡県小石原という焼き物の町出身です。梯實圓和尚から浄土真宗の結婚観について貴重なご法話をいただきましたので、以下にその内容を抜粋して記させていただきます。どうぞご愛読ください。

梯實圓和尚ご法話



僧侶が結婚するということは元々なかったこととございます。親鸞聖人によって初めて公に僧侶が結婚し、そして家庭を持つて普通の人と同じ生活をしなから、その中で仏道を確かめていく。本当の仏法というものが、飾り気のない普通の生活を送る人たちの救いになればならないという信念のもとに、親鸞聖人はご結婚に踏み切られ、そして家庭を営んでいかれました。その家庭の中で、お念仏を味わっていかれたわけとございます。これはしかし、考えてみる

と大変なことだったと思います。ただ常識を破ったということだけではなくて、おそらく家庭を持つことによつて、出家では考えられないようないろんな苦難がやつてこられ、ご覚悟をされた上のことだと思ひますが、いろんなことが親鸞聖人にもありました。

ある意味から言う出家というのは気楽なものなんです。一人で生まれてきたんだから、一人で生きて一人で死んでいけばいいわけです。出家というのはそういう生き方なんです。ですから、どこでどんなかたちで野垂れ死にしようと、それを覚悟しなければ、初めから出家しないということなんです。そういう意味では、気楽なと言うと悪いかもしれませんが、ある意味では気楽な生き方でしょう。私たちは、山の上に入つて修行をされていると聞くと、すごいなあと思いますが、そ

れだけではなくて、家庭を持つてその中で仏道というものを味わつていくとする人たちのほうが、ある意味から言うところ、ぼど厳しい修行だと私は思うのでございます。そういう中で、お念仏を確かめ、仏の真理を確認し続けていくという生き方をした方が親鸞聖人だったと思ひます。ですから、在家生活をするというのは、決して仏教が世俗化することではありません。むしろ、世俗を仏教化していく、そういう方向性を持つておられたのが親鸞聖人の生き方でした。私たちはなにかにつけて、仏さまのみ教えを心の支えとし、抛り処とし、そして光と仰いでいかなければなりません。

大無量寿経の中に、「當相敬愛無相憎嫉」という言葉がございます。ここから学校の名前にしたのが大阪の相愛大学ですね。あの相愛というのは、「當相敬愛」お互いに

に敬い合い、愛し合う。その、敬いを伴つた愛。愛に敬いが伴わなければ、それは誠の生き方ではない、ということをお経の中でおっしゃっています。愛するとは簡単に言ひますけれども、敬い合うということは、これは相当の覚悟がいります。また、それなりの人生観を確立していかなければならないでしょう。しかし、敬いと愛するということを両立していくところに仏教の人生観というものがあるんだと思ひます。愛するということは、お互いが相手の幸せを願うことです。それがなによりもの基礎なんです。自分のために相手があるのではなくて、相手のために自分があるんだという想いで生きていこうとする。これが仏教という菩薩道でしょうね。菩薩道というのは、苦難は私が引き受けるから、あなたはどうぞ幸せになつてくれと願つていく生き方。



相手の痛みを共感し、相手の悲しみを共に悲しみながら、本当の意味での相手の幸せを願う。口で言うのは簡単で、これを実際にしていこうとするのは大変なことなんです。なにが真実の生き方かということだけは、見忘れないようにしなければなりません。出来るか出来ないかは二の次三の次だと思っんですね。それよりも、なにが真実かということに目覚めた生き方、それを家庭生活の



中で実践していくということが、浄土真宗の、特に僧侶の結婚の元になるんでしょね。幸せは自分に、不幸せは人に押し付けてでもというのが、普通の考え方なんです。これを、あなたのために何か役に立つことがあればという想いを持ちながらお互いが生きていく。そんな中でいろんな問題が自ずから解けていくんじゃないかと思うのでございます。



二回の清掃奉仕ありがとうございました。



本山へご奉仕

魚津・黒部地区の浄土真宗寺院の集まり「黒西組」で本山への念仏奉仕団参拝が行われました。善巧寺からは五名が参加しました。

「本願寺には二つの宝があります。そのひとつが念仏奉仕団です。」とのお言葉をご門主から頂き、参加者一同心を熱くし、阿弥陀堂や御影堂縁側などの清掃奉仕を行いました。



黒部名水マラソン 演劇ショー

新学期早々の公演はきびしいのですが、中学生に助けられて無事に公演できました。この後同じ会場でマラソンの小出義雄監督の講演会が開かれました。



総代会 五月十三日

平成十九年度善巧寺総代会が五月十三日門徒会館二階ホールで開催されました。合掌礼拝して、住職から挨拶があり、副住職の怪我で昨年夏の行事が出来なかったお詫びと、六月の結婚式のご協力のお願がありました。続いて新総代八人の紹介と委嘱状授与が行われました。

議事に入り、嶋田議長



の進行で進められました。まず、平成十八年度の行事報告ならびに会計報告が事務局から報告され有馬文義氏から監査報告があつて全員で承認。引き続き平成十九年度の行事計画予算が審議されました。この百年余初めての結婚式が行われるので、門徒としてはお祝いを

出してはどうか話し合われました。個々にするのは自由だが、全員参加という意味で一般会計から五十万円を捻出するという意見に賛成多数で決議されました。岡田営繕部長から今年度の営繕計画が報告され空華殿の雨漏り跡の補修など優先順位をつけて維持管理につとめたいという意向が提出されました。この件を

含めて行事計画、予算が承認されました。その他の件では、欠席の野島責任役員に代わって住職から責任役員の補佐役として副総代長制を認めてほしい旨の要望が報告され中山慶一氏、野畑市郎氏、有馬文義氏の三人を副総代長とするようお願いがありました。また、昨年からお知らせしていた平成二十四年本山で勤務される親鸞聖人七百五十回遠忌法要への懇志、善巧寺における同法要の実行委員会設置の件が報告され、早々に委員会の人選をすること、この秋のほんこさんから懇志をお願いしていくことになりました。

一時間余で総代会は無事終了、続いて教化推進協議会が各教化団体の代表者参加のもと行われました。谷川教化部長の進行で進められ、藤沢久美子、久田英子、新保蓉子さんたちからそれぞれの会の活動が報告されました。

新総代紹介



板川吉信さん
(上野)



大浦和行さん
(下村)



岩上幹夫さん
(下村)



森岡栄一さん
(石田)



栃沢光雄さん
(石田)



開沢清子さん
(栃沢)



尾沢正敏さん
(中新)

藤沢 猛さん
(栃沢)

花まつり

四月十五日

例年より一週間早く四月十五日に花まつりが開催されました。気候が不順で花が早い早いと言われていたものですが、一週間早めましたが、結局は例年通りでした。おかげで花摘みは海の近くの青木まで行きました。花の数はやや少なめでしたが、美しい花のお荘厳ができました。

昨年から始められたミニコンサートのゲストは



バリトン歌手の内山太一先生ご夫婦で、花の会や雪ん子もコラボレーションして楽しいコンサートになりました。



初参式、受式者の皆さん

寺
ごよみ

八月

- 一日 石田・生地・中新お講
- 八日 仏教入門講座
- 一三日 青年盆会
- 一五日 こども盆踊り
- 一六日 盆参り
- 一九日 雪ん子全国青少年演劇祭出演
- 二五日 雪ん子野外公演
- 二八日 高岡川上組来院

寺
ごよみ

九月

- 三日 大阪教区仏婦来院
- 一二日 仏教入門講座
- 二三日 雪ん子大阪津村別院公演

オススメ仏教書

「お盆」をテーマに三名の著者がそれぞれの味わいを綴る施本が出版。その中に福井へ嫁いだ有花さんも執筆参加しています。お寺にも用意しておきます。



えいたいしどうえ 永代祠堂会

七月十六日 十一時 中陣お講

一時 仏婦物故者追悼法要
寺族・総代・戦没者

十七日 一時 物故者追悼法要

十八日 一時 内陣法名法要

七時 夜のお座

十九日 一時 御満座
内陣法名法要

※七月十九日は十二時二十分頃からお寺クイズ
を行います。

※バザーは毎日行います。

今年のご講師は、二年前永代祠堂会へご出講
して頂き大好評を博しました鹿児島の加藤先生
です。どうぞお誘い合わせの上お参りください。

講師

鹿児島浄光寺住職

加藤 信行 師



清掃奉仕お願い

七月八日午前八時半
(雨天順延)

暑い最中ですがご協力
をお願いします。

パッチワーク展

七月十四日～二十日
永代祠堂会中、門徒会

館にてパッ
チワークが
展示されま
す。



青年盆会

八月十三日

おつとめ、お話の後には
バーベキューのお楽しみ。

こども盆おどり

八月十五日午後六時半

今年で三
十周年を
迎えます。



盆参り

八月十六日午前十時半
ここ一年で身内を亡く
された方は特に参りく
ださいますように。

雪ん子野外公演

八月二十五日午後七時



仏教入門講座

ブツダからのメッセージ

午後八時～九時

仏教を楽しく学ぼうと
始まった入門講座「ブツ
ダからのメッセージ」。
どなたでもどうぞご参加
ください。今後の予定は、
七月五日、八月十日、九
月十二日。

合 掌

爽やかな水無月の風そ
よぐ快晴の日。眩しいば
かりの日差しに白無垢の
花嫁が輝いていました。
百三十余年初めての善巧
寺での結婚式。全門徒さ
んをお招きしての結婚式、
披露宴にしたい...という
のが本音でしたが、天候、
場所などの問題で不可能
だったのが残念でした。
新しい善巧寺のスタート
です。

＊ ＊ ＊

平成二十四年の親鸞聖
人七百五十回大遠忌法要
に向けて、いよいよ動き
始めます。本山では平成
二十三年四月より勤め
がはじまり、善巧寺では
平成二十四年中に法要予
定です。今年のほんこさ
んからご協力を求めるこ
とになるかと思ひますの
で、どうぞよろ
しくお願い致し
ます。

